

本会の活動から

第45回日本マススクリーニング学会 学術集会で本会の取り組みを発表

第45回日本マススクリーニング学会学術集会（会長 大竹明・埼玉医科大学病院教授／難病センター副センター長）が8月17～18日、「遺伝子によるマススクリーニングを考える」をテーマに埼玉県さいたま市で開催され、母子保健検査部長の世良保美の他、筆者を含む職員5人が参加した。

本学術集会には、新生児マススクリーニング（NBS）に関わる医療従事者250人余りが参加し、シンポジウム、ワークショップ、一般演題などで、臨床や検査の立場から活発な討議が行われた。

筆者は一般演題で、「東京都における極長鎖アシルCOA脱水素酵素欠損症スクリーニングの現状と今後に向けた検討」と題して発表した。



第36回全国情報統計研修会を開催

第36回全国情報統計研修会（主催 予防医学事業中央会／本会）が8月30～31日の両日、東京都新宿区で開催された。

この研修会は、予防医学事業中央会傘下の全国支部から情報統計担当者が一堂に会し、事業を推進する上での課題やこれからの情報統計のあり方などを模索・検討し、職員の意識の向上を目指す場として毎年、支部の持ち回りで開催されている。今年は本会が担当し、95人が参加する盛況となった。

開催に当たっては、中央会事務局及び千葉県、東京都、神奈川県各支部から実行委員が集まり、まず今年のテーマを企画。その後、各支部に対し事前アンケートなどのやり取りを数回行った。研修会の限られた時間を有効に活用するためにも事前の資料作成は重要であり、実行委員の腕の見せ所である。

研修会初日は、情報処理分野、成績処理分野（職



本症は脂肪酸代謝異常症の一種であり、脂肪酸からエネルギーを産生する代謝経路に異常があるため、重症型では新生児期からの極度のエネルギー不足により致死的経過をたどる疾患である。そのためNBSによって早期発見が必要とされているが、患者でない新生児でも哺乳不足等の影響を受け、見かけ上、測定指標が高値を示して偽陽性となることが問題となっている。そこで、いくつか提唱されている新しい指標を使用し、東京都の過去4年間のデータを振り返ったところ、偽陽性例を大幅に削減しながらも本症患者を発見することが可能であり、精度よく検査できることが確認された。

今後は、この測定指標を前向きに取り入れ、本症患者を早期に発見して医療介入に導くと同時に、不要な再検査を低減させ、新生児並びに保護者の負担軽減に寄与したいと考えている。

母子保健検査部 渡辺和宏

第59回日本人間ドック学会 学術大会の一般演題で発表

第59回日本人間ドック学会学術大会（大会長 加藤公則・新潟大学大学院生活習慣病予防検査医学講座教授／一般社団法人新潟県労働衛生医学協会）が8月30～31日、「人が「人らしく」生きるために——健康長寿に寄与できる人間ドックを目指して」をテーマに新潟県新潟市で開催され、検査研究センター長の木口一成、総合健診部長の川井三恵の他、職員4人が参加した。

域・施設・地域）に分かれて討議が行われ、経験年数の異なる担当者がそれぞれのテーマで議論を交わした。2日目は、支部紹介、教育講演の他、2支部の事例報告に基づきディスカッションを行った。特に元厚生労働省保険局保健事業推進専門官の佐藤かがり氏の教育講演「健診機関に求めること」は、今後の業務を進める上で大変参考になった。

他支部の職員と親交を深め、平時でも連絡を気軽にとれる仲間ができることは、難題にぶつかった時には大きな助けとなる。今回のアンケート結果を基に評価・分析し、来年はさらによい研修会にしていきたい。

統計事務部長 石山 稔

その他の活動

○第91回日本超音波医学会学術集会（会長 中谷敏・大阪大学大学院医学系研究科教授）が6月8～10日、「超音波医学の知と技を究める」をテーマに兵庫県神戸市で開催され、がん検診・診断部長の坂佳奈子が参加。パネルディスカッションで、「検診における非腫瘍性病変の評価」と題して発表した。

○第135回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（会長 青木大輔・慶應義塾大学医学部教授）が6月16～17日、東京都千代田区で開催され、検査研究センター長の木口一成と細胞病理診断部長の久布白兼行が参加した。

○第64回マンモグラフィ読影試験（主催 NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構）が6月16～17日、東京都墨田区で開催され、がん検診・診断部長の坂佳奈子が講師として参加した。



受診者の健康増進に貢献できる人間ドック施設であるために何ができるか、何をすべきかをめぐり、特別講演や教育講演、シンポジウム、健診実務者のスキルアップを目的とした特別企画の他、多数の一般発表が活発に行われた。

筆者は一般演題「保健指導全般」で、「健康学習会での運動教室の内容に関する検討」について発表した。本会の人間ドックでは、契約健保の受診者に対して人間ドック当日に健康学習会（栄養教室・運動教室・個別保健相談）を実施している。運動教室では「運動を習慣とする」「質のよい睡眠をとれるようになる」を目標にしているが、これらの内容が適切なものであったかを検討した。

運動習慣と睡眠時間、睡眠で休養がとれているか（自覚的休養感）の関連を検討した結果、男女で差があることがわかり、教室内容の課題を抽出し、改善につながった事例を報告した。

人間ドック受診はほとんどの人が1年に1回である。その機会に自身の健康状態を正しく理解し、次の受診までセルフケアができるよう、健康教育の場としての役割も果たせるような人間ドックを目指して、取り組んでいきたい。

健康増進部 吉田静絵

○第14回これからの健診事業を考える会（主催 日本人間ドック健診協会）が7月5日、東京都千代田区で開催され、常務理事の大島利彦の他、職域保健部の職員2人が参加した。

○第54回日本小児循環器学会総会・学術集会（会長 富田英・昭和大学病院小児循環器・成人先天性疾患センター長・教授）が7月5～7日、「伝え育てる小児循環器——20年後のために今できること」をテーマに神奈川県横浜市で開催され、地域・学校保健担当理事の阿部勝巳と学校保健部の職員3人、健診検査部の職員2人が参加した。

○平成30年度第1回東京都マンモグラフィ読影講習会（主催 公益財団法人東京都保健医療公社東京都がん検診センター）が7月7日、東京都府中市の東京都がん検診センターで開催され、がん検診・診断部長の坂佳奈子が講師として参加した。

○第37回東京都臨床細胞学会総会・学術集会（会長 小松京子・がん研有明病院臨床病理センター技師長）が7月8日、東京都新宿区の東京医科大学病院で開催され、細胞病理診断部長の久布白兼行が参加した。

○第5回日本婦人科腫瘍学会研修会が7月14日、東京都千代田区で開催され、検査研究センター長の木口一成と細胞病理診断部長の久布白兼行が参加した。

○第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会（会長 原田省・鳥取大学医学部附属病院院長）が8月2日～4日、「BEYOND THE LIMIT」をテーマに鳥取県松江市で開催され、細胞病理診断部長の久布白兼行が参加した。

○勤続20年の職員を対象とした海外研修が8月19～25日に行われ、広報室部長の東卓也を団長とする職員7人が台湾・韓国の健診機関等を訪問した。

人・往来

ザンビア共和国の医師らの研修に協力

ジョイセフでは、「ワンストップサービスサイト」による生涯を通じた女性の健康づくりプロジェクトの一環として、7月15〜27日までの約2週間にわたり、ザンビア共和国のプロジェクト関係者10人を対象とした研修を行った。

その一行が7月23日、本会を訪れ、マンモグラフィ検診車、女性検診センター、母子保健検査部の見学を行った。また、「本会の概要及び母子保健事業について」と題する講義が行われ、本会検査研究センター長の木口一成と細胞病理部長の久布白兼行らが対応した。

帝京短大と東洋大学の学生の見学実習に協力

東洋大学のライフデザイン学部健康スポーツ学科と帝京短期大学の生活科学科生活科学専攻では、養護教諭を目指す学生を対象に、学校保健現場での見学実習を行っている。

本会は、これまでそれぞれの大学の見学実習に協力し、学生を受け入れてきたが、今年度は両大学が共同で見学実習を行うこととなり、8月7日に学生18人を受け入れた。

訪れた学生は、本会学校保健部のスタッフから学校保健事業の概要に関する説明を受けた。また臨床検査技師から検査や健診の実際の方法について説明を受け検査室などを見学した。

東京工科大学の学生の見学看護実習に協力

東京工科大学では、医療保健学部看護学科の教育

川崎成郎医師が 本会の消化器診断部長に就任しました

川崎成郎（かわさき なるお）医師は、1994年に東京慈恵会医科大学医学部を卒業し、同大学院修了後、同大学外科学講座に入局。国際医療福祉大学病院外科准教授、町田市民病院外科担当部長を経て、2018年10月に本会消化器診断部長に就任しました。本会保健会館クリニックでは消化器・内科外来、内視鏡センターを担当しています。

日本外科学会 学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本静脈経調栄養学会認定医・専門医などの資格を持っている他、NPO法人PEGドクターズネットワークの理事を務めています。

学生の頃は水泳部に所属していたとのことですが、今はウォーキングで運動不足を解消しているようです。楽しみは晩酌。つまみは自分で作ることもあるそうです。



課程で、統合看護実習を行っている。

本会は、その臨地実習に協力し、7月23日、25日の2日間にあわたって看護学生6人を受け入れた。実習を行った看護学生は、本会の保健師から、検査、健診や保健指導をはじめとする健康づくり支援活動の説明を受け、現場の取り組みを学んだ。

小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります（保険診療）。
本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

前田美穂先生による

『貧血電話相談室』

養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします（無料）

開催日：第1水曜日 14時半～15時半

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上陸美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院名誉院長 磯辺啓二郎 元千葉大学教授	岡田知雄 神奈川工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木眞理 政策研究大学院大学 教授
外来日	第3木曜日 午前	第1水曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4水曜日 午後	第3水曜日 午後	第1金曜日 午後



問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 学校保健部
東京都新宿区市谷砂土原町1-2

03-3269-1131

第56回東京思春期保健研究会 学校で配慮と支援が必要な LGBTの子どもたち

日時 11月10日(土) 16時～
会場 新宿区・持田製薬株式会社 本社2階「ルークホール」
演題 学校で配慮と支援が必要なLGBTの子どもたち
講師 日高 庸晴氏 宝塚大学看護学部教授
●参加費 一般：1,000円 学生：500円
●申込不要

問い合わせ 東京思春期保健研究会事務局 ☎03-5275-1191

第282回ヘルスケア研修会 新型タバコの有害成分と健康影響

日時 11月28日(水) 14時～16時
会場 千代田区・「星陵会館」2階ホール
演題 新型タバコの有害成分と健康影響
——現時点でわかっていること
講師 樺田 尚樹氏 国立保健医療科学院生活習慣病環境研究部部長
●参加費 2,000円
●申込不要 ●定員 300人(先着順)

問い合わせ 東京都予防医学協会 広報室
☎03-3269-1131 内線2241、2242

第8回遺伝がわかるセミナー いま改めて、出生前診断を考える

日時 1月20日(日) 10時～16時15分
会場 文京区・「平和と労働センター・全労連会館」
講師 小野 正恵氏 東京通信病院小児科 部長
青木 美紀子氏 聖路加国際大学遺伝看護学 准教授
山中 美智子氏 聖路加国際病院遺伝診療部 部長
佐藤 孝道氏 武久レディースクリニック 顧問
●参加費 10,800円(税込) ●定員 100人(先着順)
●対象 保健師、助産師、看護師、看護教員、保育士等

問い合わせ 日本家族計画協会 ☎03-3269-4785

第283回ヘルスケア研修会 保健指導の成果があがらない人たちと どう向き合うか

日時 1月30日(水) 14時～16時
会場 千代田区・「星陵会館」2階ホール
演題 保健指導の成果があがらない人たちとどう向き合うか
——医療における二人称的参画について考えてみよう
講師 岩田 誠氏 東京女子医科大学名誉教授
●参加費 2,000円
●申込不要 ●定員 300人(先着順)

問い合わせ 東京都予防医学協会 広報室
☎03-3269-1131 内線2241、2242

norudia
No Diabetes

ずっと一緒に
いたいから。

腎障害の早期判別に貢献します

SEKISUI

体外診断用医薬品
認証番号 226ADAMX00212000

健保適用

尿中ヒトL型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)測定用

ノルディア® L-FABP

新しい視点で、腎障害を早期にキャッチ!

ヒトL型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)は、
腎組織が破綻する前に出てくる早期警報です。



特長

- 1 試薬の調製が不要な液状試薬です。
- 2 各種自動分析装置への適用が可能です。

製造販売元 **積水メディカル株式会社**

本社：〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目1番3号 TEL 03(3272)0681(代表)
ホームページアドレス：<http://www.sekisui-medical.jp>



●個人情報の取扱いについて

日頃より、公益財団法人東京都予防医学協会の機関誌「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。

本会では、「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報（氏名、住所、所属、役職など）を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。送付名簿からの削除や変更を希望される場合には、お手数ですが、下記広報室までご連絡ください。



●送付先の変更・送付中止について

送付先の変更・送付中止を希望される場合には、広報室までお知らせください。

Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp
F A X 03-3269-7562
T E L 03-3269-1131



健康管理コンサルタントセンター コンサルテーションのご案内

健康管理相談を お引き受けします

健康管理コンサルタントセンターの幹事である医師が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします(予約制・無料)。

お問い合わせ・ お申し込みは事務局まで

健康管理コンサルタントセンター 事務局

東京都新宿区市谷砂土原町1-2
公益財団法人東京都予防医学協会 広報室
TEL 03-3269-1131 内線2241、2242

あなたの健康づくりを全力サポート!

よぼう医学

2018 AUTUMN 秋号 No.02
2018年10月15日発行 通巻第530号

●発行人 小野良樹
●発行所 公益財団法人東京都予防医学協会
〒162-8402 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
TEL : 03-3269-1121
FAX : 03-3260-6900
URL : <https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp>

●企画 広報企画委員会
●編集 広報室
●デザイン 大谷達也(有限会社アイル企画)
●印刷 大日本印刷株式会社

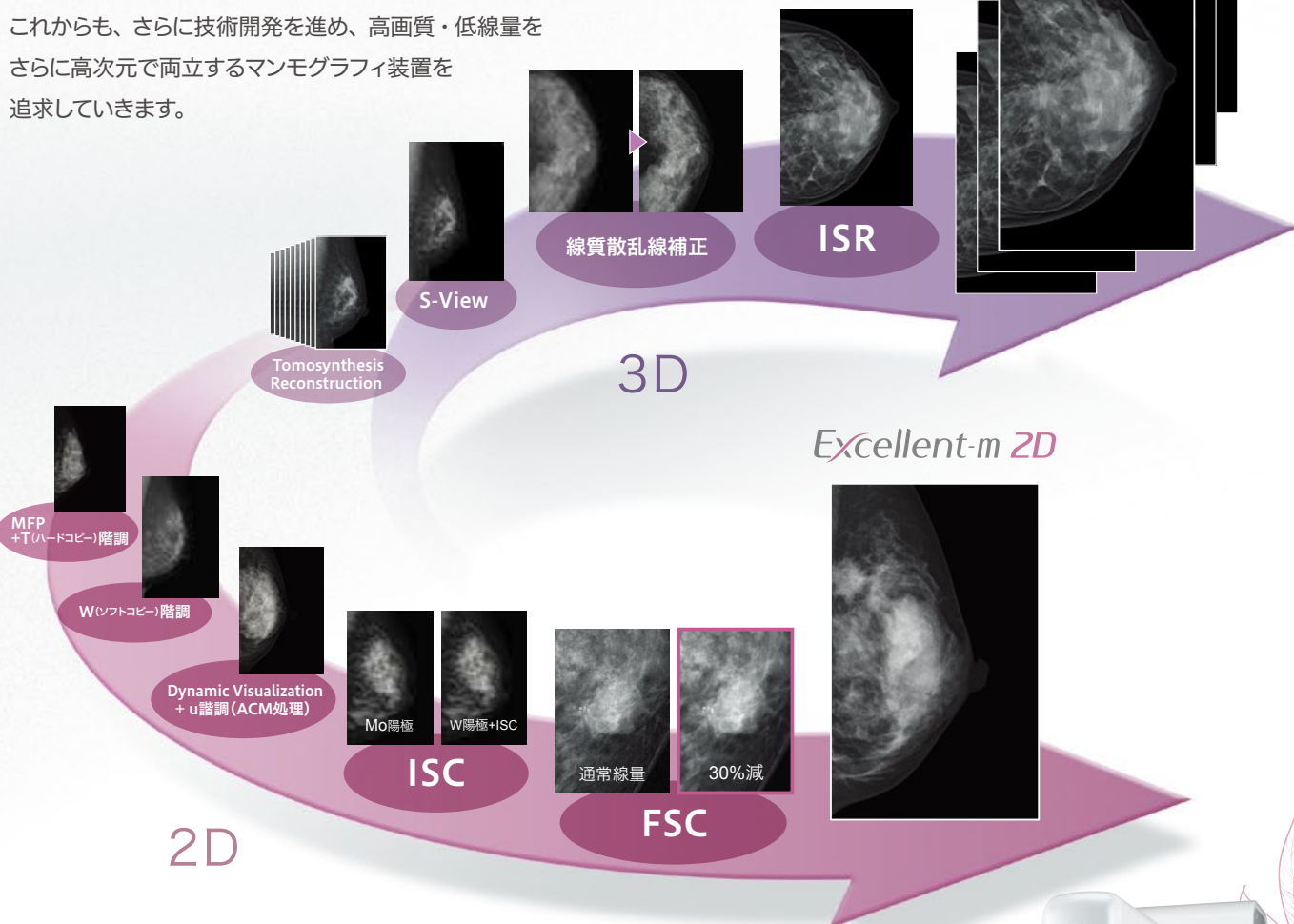
●『よぼう医学』は本会ホームページ(<https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp/>)からもご覧いただけます。

※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載をお断りします。



画像処理技術を磨き続け、 さらなる高画質・低線量に挑戦します。

富士フィルムは、画像処理技術を駆使し、マンモグラフィ装置の高画質・低線量化を進めてきました。これからも、さらに技術開発を進め、高画質・低線量をさらに高次元で両立するマンモグラフィ装置を追求していきます。



Excellent-m 2D

ISC 線質補正技術
FSC 微細構造鮮明化処理

Excellent-m 3D

ISR 逐次超解像再構成処理
● 超解像技術
● 逐次近似法(アーチファクト抑制/ノイズ低減)

AMULET *Innovality*

FUJIFILM DIGITAL MAMMOGRAPHY SYSTEM



富士フィルムグループは
乳がん検診啓発活動を応援しています。

富士フィルム メディカル株式会社

〒106-0031 東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フィルム西麻布ビル TEL:03-6419-8033(代) URL: <http://fms.fujifilm.co.jp>
AMULET Innovality 販売名: デジタル式乳房用X線診断装置 FDR MS-3500 認証番号: 224ABBZX00182000

